

19) 明治元年に中島宗達によって行われた
集団歯科検診の可能性

Possibility of Group Dental Checkup by
Soutatsu Nakajima in 1868

茨城県 鹿嶋市タナカ歯科 ○池田 貴裕
福本 雅文
田中 晃伸

Takahiro Ikeda, Masafumi Fukumoto and
Akinobu Tanaka, *Tanaka Dental Clinic*

滋賀県彦根市立図書館が所蔵する彦根市史稿において、演者達は彦根市出身の西洋醫『中島宗達』が、明治元年において恩師ジェームス・カーティス・ヘボンが横浜において娼妓対象の検歯を行ったおりに、歯科的検診を行った可能性がある資料を発見した。

この彦根市史稿とは大正5年頃から彦根市の合併に伴い彦根市編纂事務所が設立され町史編纂が行われ昭和11~12年頃に彦根市町史が発行された後、さらにそれをもとに編纂されたものである。

その史稿66巻人物史(VI)中川泉三編著の中で、『中島宗達』に関する稿があり、「宗達其期を利し歯牙の検査をなせしに齲蝕者拾の七に及ぶに驚き齲蝕統計を發表して醫界を驚かせり。」という内容のものであり娼妓を対象にした集団歯科検診と推察される。

『中島宗達』は、宗達天保十一年(1840年)に坂田郡小田大原村大字小田堀兵藏の長男として生れ、安政元年(1854年)14歳において三浦北庵の門に入り医家を目指し、文久元年(1861年)に中島家の養子となった後に、元治元年(1864年)第10代中島宗達を襲名した。

その後明治元年において横浜のヘボンに師事し、6月以降において先に述べた集団歯科検診を行った可能性があるものと思われる。

『中島宗達』は聴診器の金属製の集音部導管を軟ゴム管に改良したり、熱海温泉の成分定量分析を行った人であるが、明治八年に彦根にて開業した後も、公的病院の設立や医学教育に関わり、産婆の地位向上、婦女子教育、さらには盲人教育など生涯において人権擁護に尽くした人物である。大正一四年(1925)十月八八歳にて没す。

20) 内務省衛生局編纂「歯と健康」
(大阪府衛生會翻刻、仁丹の歯磨本
舗発行：大正13年)について

“HA TO KENKO” a 1924 publication edited
by the Department of Hygiene of the
Ministry of Home Affairs (reprinted by the
Osaka Health Association and published by
the head office of Jintan Toothpaste)

日本大学松戸歯学部 ○加來 洋子
山口 秀紀
石橋 肇
卯田 昭夫
渋谷 鉦

Yohko Kaku, Hidenori Yamaguchi, Hajime
Ishibashi, Akio Uda and Koh Shibutani, *Nihon
University School of Dentistry at Matsudo*

「森下仁丹80年史」(発行/昭和49年6月 森下仁丹株式会社)によると、仁丹は、大阪に薬種商「森下南洋堂」を創業(明治26年(1893)2月11日)した森下 博が、台湾島民反乱(明治28年(1895)5月25日)討伐のため招集され、台湾従軍中に現地中国人が常用している懷中救急清涼剤に着想を得て、明治38年(1905)2月11日に発売された。その後、森下は経営の多角化を構想し、大正11年(1922)2月、「仁丹の体温計」、「仁丹ハミガキ」を発売した。この「仁丹ハミガキ」の容器にはアルミ製を用い、これはわが国のアルミ容器の草分けとなったことが記されている。翌大正12年(1923)2月には「仁丹薬歯磨」が発売されたことが巻末の年表に記載されているが、詳細については触れられていない。

本冊子は縦18.9×横12.9cm大、28頁からなり、全文にわたってルビがふられており、重要部分は太字の大きな活字で示されている。奥付には、大正13年12月15日発行、発行所 仁丹本舗 森下博営業所とある。裏表紙には、「仁丹のハミガキ」の広告が掲載されており、「ムシ歯は黴菌の巣窟 食後寝前にも必ず 四博士完成 科学的優秀 仁丹のハミガキで口中を清潔にし、歯の永久美と強健を保たれよ」との広告文とともに、仁丹の商標と「仁丹の薬歯磨」徳用十銭包の縮図が引用されている。この「仁丹の薬歯磨」徳用十銭

包の縮図には、日本歯科学会々長 ドクトル D.S
ドクトル M 高島多米治先生、日本歯科医学専門
学校教授 医学博士 二村領次郎先生、顧問 薬
学博士 理学博士 長井長義先生、監督 薬学博
士 大槻 式先生の4名の先生の名前が記されて
おり、公告文中の四博士に該当すると思われる。

表紙裏には、大阪府衛生会による、本冊子を発
行するに至った経緯が記されており、「歯牙の健
否は延いて国民体力の消長に關す。従つて口腔衛
生の普及を図ることは健康の基礎を作る意義に於
て最も緊要な事柄で、その一助として茲に本冊子
を翻刻頒布するの機会を得たことは本会の欣快と
する所である。仁丹の齒磨本舖が此の趣旨に多大
の賛意を表し、喜んで其印行及頒布を擔任せられ
たことは、自他共に甚だ感謝せねばならぬ所で、
茲に特筆して敬意を表する次第である。」とあり、
齒科には關係のない「仁丹の体温計」の広告も掲
載されていることから、森下仁丹が本冊子の発行
に大いに寄与したことがうかがわれるが、「森下
仁丹 80 年史」には、本冊子については述べられて
いない。

中表紙裏には、内務省衛生局による序文があり、
「本冊子は齒に關し一般に注意すべき事項に就き
中央衛生会臨時委員医学博士島峯徹氏に執筆を依
嘱し編纂したものである」とある。

また、本論に入る前に、「齒と齒齦の磨き方（口
繪説明）」があり、第1〜8図までの写真を用いて、
齒ブラシの持ち方および齒ブラシの動かす方向を
図示して詳細に説明している。文末には「アルフ
レッド・シイ・フォーンズ氏の著書に依る」と出
典が記されている。

目次は、

齒の大切な理由

齒は一生使用せらるべきもの

齒の効用

消化器官として

美容上の關係

發音機關として

齒の發生

齒の抜け代ること

六歳臼齒の大切な理由

齒と他の疾病との關係

齒病の早期診療の必要

齒の養生法と主なる齒病

一、齒列不正

二、齒槽膿漏

三、抜齒に就て

四、齲齒と其予防

齲齒の出来る原因は何か

齲齒の予防

齒牙の清掃

食後と就眼前の含嗽

齒痛時の応急手当

の11項目に分かれている。

最初の「齒の大切な理由」では、

「齒が人体の健康を保つのに、極めて大切なもの
であることは、從來左程に人々の考へて居らぬ
ことであつた。……多くの人は齲齒で痛んで来た
とか齒が抜け落ちて困るとかいう場合の外には、
平生齒に対して注意するということが無い。……
人体の生命を保つのに、種々の条件があるのは言
う迄もないことであるが、就中其の第一番に推さ
れるものは、食物を摂るということである。食物
を摂るがために、第一番に働くものは何であるか
というと、即ち齒である。されば齒の働きの良否
が、直接に人の生命を保つ上に、重大なる關係を
有するものであることを、ほぼ想像し得るであろ
う。諺に「**齒は健康の門番なり**」ということがあ
るが、これは明らかに前の意味を言い表した言葉
である。また仏經の經典にも「**齒は支なり勢なり
又齡なり**」とあつて、即ち齒が身体の支えであり、
齒の丈夫な人は勢力が旺盛で、従つて長命をする
ことが出来るというのである。昔から長生きをし
た人の多くは、満足に健康な齒が揃つて居ること
は、世間によく知られた事實である。」と二つの諺
を太字で示して、齒の大切さを強調している。

ほかの各項においても、齒の大切さを理路整然
と説明しており、80年以上前に作成された小冊子
にもかかわらず、きわめて多くのことを含んでい
る。本冊子各項についての内容を報告した。